

一人ひとりの多様な幸せwell-beingが 実現できる社会を目指して

プログラムディレクター 久野 譜也
筑波大学大学院 人間総合科学学術院 教授



【本課題のミッション】

一人ひとりの多様な幸せ(well-being)の最大化実現に向けて、国民の包摂的なコミュニティを実現するために、寛容性・自律性が高められる科学技術を基盤とした社会技術が開発されるプラットフォームを開発し、それらの社会実装を達成する。

2023年11月に、ミッションを達成可能とする全ての研究開発テーマが確定し、研究開発がスタートしました。テーマ間の連携も図りながら、一致団結して課題達成に取り組んでいます。このような大型プロジェクトは、時には各テーマがバラバラで、成果が最大化されないことがこれまでも多く見られましたが、SIPはそれらの失敗を克服できる体制を取れるように配慮されており、私をサポートしてくれますサブプログラムディレクター(サブPD)も5人態勢でフル回転しております。また、私自身もSIPのアウトカム(成果)は社会実装であることに大変共感しており、ここに強く拘って各テーマの研究開発責任者と連携してプロジェクトを進めております。

是非、多くの国民の皆様がこの課題に関心を持っていただき、様々な形で関与頂くことを期待しております。また、研究内容を身近に感じて頂けますよう、多様な情報発信も行ってまいりますので、ご意見等もお寄せいただければと思います。

科学技術が、真に国民一人一人におけるWell-beingの最大化に貢献できるよう邁進していきますので、どうぞご期待ください。

2023年4月より内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期が5年間の予定でスタートしました。14課題がスタートしましたが、その内の一課題として、「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」が位置付けられました。内閣府は、この課題の趣旨を「性別、年齢、障がいの有無、少数派・多数派に関わらず、多様な人々が社会的にも身体的・精神的にも豊かで暮らしやすいコミュニティを実現するため、個人や社会の寛容性と自律性の向上により、社会活動への主体的参加を促し、必要なサポートが得られる仕組みを構築する」と示しています。

この課題は、「一人ひとりの多様な幸せ(well-being)が実現できる社会」【第6期科学技術・イノベーション基本計画 第1章3.(1)②】にダイレクトに貢献するものであり、科学技術の発展だけでは人々の幸せの最大化が困難であることを知った我々が、確実に実現していくことが求められる将来像と言えます。

我々は、2022年度の1年間、フィジビリティスタディを実施し、準備期間としてこの課題に対する「社会実装に向けた戦略及び研究開発計画」(以下、「戦略及び計画」)の策定にも関わりました。その中で、包摂性を寛容性と自律性と捉え、以下のように課題のミッションをまとめました。

実施体制



包摂的コミュニティプラットフォームの構築

- サブ課題 A 社会の寛容性向上策
- サブ課題 B 個人の自律性向上策
- サブ課題 C 子育て世代・女性の幸福度向上策
- サブ課題 D 障がい者・高齢者の生きがい向上策



研究推進法人
国立研究開発法人
医薬基盤・健康・栄養研究所



一人ひとりの多様な幸せ(well-being)の最大化実現に向けて、国民の包摂的なコミュニティを実現するために、寛容性・自律性が高められる科学技術を基盤とした社会技術が展開されるプラットフォームを開発し、社会実装する。

サブ課題 A

社会の寛容性向上策

社会の超少子高齢化と高度情報化が進み、生活・価値観の多様化とウェットな人間関係の分断により、コミュニティ活動の低下や社会的孤立が深刻化しています。そこでサブ課題Aの目的は、社会の寛容性を向上するために、コミュニティを再生するための社会技術と地域に寄り添いコミュニティ再生を支援する「中間法人」とそれを支える全国組織を設計し、地域拠点の整備や支援アプリと、暮らし・学び・遊び・ウエルネスなどのサービスを提供し、新たに開発する包摂性評価指標を導入したまちづくり手法を社会実装することです。また、地域の世話役を育成する養成講座、人々に「多様な違いがあって当たり前」の意識変革を目指す教育プログラム、社会参加を困難にしている人々が、自らを整え、社会参加ができる準備のための現実・仮想の場をメタバースなど新しい技術も活用して官民連携サービスとして提供します。結果として、LGBTQ等ジェンダーの指向性や自分らしさの価値基準の違いによる当事者・非当事者の息苦しさを軽減し、誰もが安心して自分らしく生きられる地域コミュニティと社会を実現します。

サブ課題 B

個人の自律性向上策

社会全体の包摂性を向上するためには、一人ひとりが主体的に自身の幸福や生きがいにに向けて自らの考えで行動できること、すなわち自律性の向上と、それを支える心身の健康の維持・増進が不可欠です。サブ課題Bの目的は、画一的な支援ではなく、一人ひとりのライフステージや個人の特性(属性、環境、心理特性等)に応じた「個別化の支援」を実現することです。このため、幅広いライフステージや個人の特性に関わるデータベースの構築を行い、そこに蓄積されるデータを活用することで個人に適合した支援サービスを提供します。具体的には健康行動の推進に必要な健康リテラシーを正確に評価して向上を促す介入ツール、将来の健康リスクを予測するAIモデル、この情報を用いた行動変容技術、さらに、自然言語会話AIに基づいて健康に無関心な個人を分類し、その特性を踏まえた対話から健康行動を促すアプリなど、各要素技術をパッケージ化した「個別化の支援」サービスを広く提供することで、健康無関心層を含む人々の自律性を向上させます。

サブ課題 C

子育て世代・女性の幸福度向上策

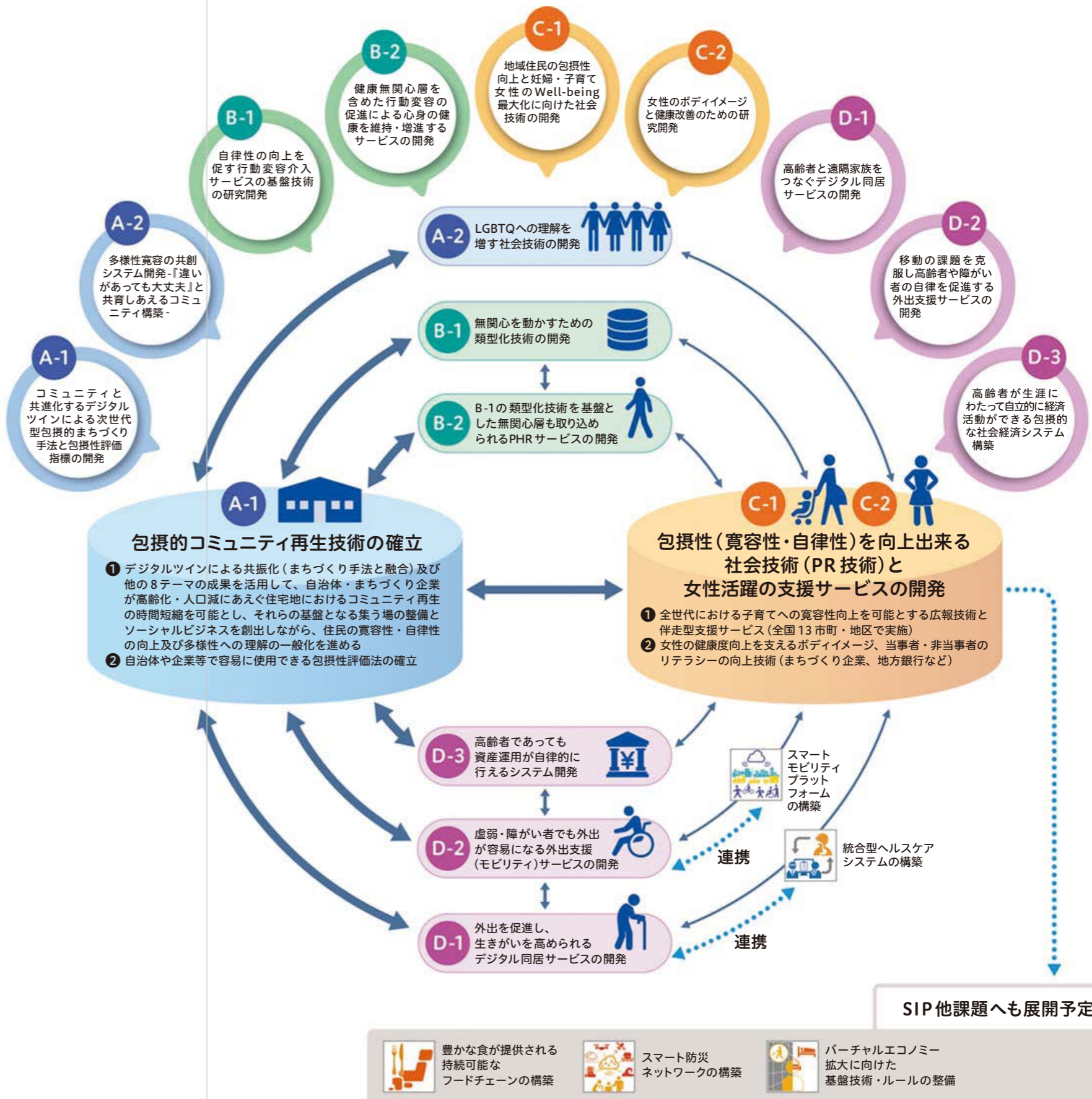
女性において、思春期、産前・産後、更年期に生じる様々な課題が、Well-beingや就労率を低下させ、大きな経済的損失をもたらす可能性が指摘されています。サブ課題Cの目的は、自治体、教育施設、企業、職場等が連携して本課題を解決する4つの社会技術を確立し、さらに自治体や企業が容易に導入できるように一般化することです。

- 1 企業や自治体と連携し、子育て支援、女性の健康リテラシー向上、瘦せに偏りがちな体型の多様性の理解を促進する社会的ムーブメントを起こすモデルを構築します。
- 2 妊婦や子育て中の女性に対するハイブリッド型のサポートを構築し、持続的に展開するための事業モデルを開発します。
- 3 女性向けの健康経営の制度を策定し、それを推進する経営層と人事担当者の行動変容を促進するモデルを構築します。
- 4 学校教育におけるボディイメージに関する新しい教育法を開発し、それを浸透させるモデルを構築します。これにより、女性が生涯を通じて心身ともに健康で幸福な生活を送るための包摂的な社会を実現します。

サブ課題 D

障がい者・高齢者の生きがい向上策

高齢化、人口減少と核家族化が進化するなか、人間関係の希薄化が進み、どの地域でも孤独・孤立の問題を抱えています。サブ課題Dの目的は、高齢者自身が家族や地域住民とつながり、積極的に外出して経済社会活動に参加し、心身の健康に気を配ることによって健康で楽しい暮らしを送ると同時に、包摂的な地域社会の実現とその持続可能性を担保することです。このため、モバイルを使ったデジタルサービスを提供することで遠隔家族や地域住民とのコミュニケーションを確保・促進し、自動運転モビリティによるオンデマンドな外出支援サービスを提供することで外出意欲の向上と社会参加の機会を確保します。さらに福祉と金融が連携することで、高齢者の認知機能が低下しても、詐欺などの問題に巻き込まれずに、自分の資産を自分と家族のために使えるような「資産の見守り」を可能にします。生きづらさや不安を感じたら周りに「助けて」といえる社会、そして、人とAI技術の融合によって「お互い様」を実感できる「懐かしい未来」を実現します。



SIP他課題へも展開予定